

ヨシナカ新聞

6月号

発行所

株式会社ヨシナカ

東京営業所

TEL:03-3555-0796

変身した街路樹

先日、得意先に徒歩で

向かっている途中で、いつもは檜の木垣根のよう緑だけだった街路樹が、まるで緑の和菓子にピンクの砂糖を振りかけたような姿になっているのを見て驚きました。

相変わらず植物の名前に疎い私は（進歩がない）、訪問するや否や女子社員の方にお聞きしましたところ、『サツキツツジ』である事が判明しました！（教えて頂いて有難うございました）。

サツキツツジ

ジは名前からも判るように旧暦の阜月（五月下旬から七月上旬）の頃に一斉に咲き揃うところからその名が付いたと言われています。

ツツジの一種



で、ツツジとの違いは、

新芽が伸び出す時期や開花期、花の大きさや光沢の有無で判断するそうです。写真のように背の低い街路樹として植えられる事が多いそうです。

本来は溪流沿いの岩の上に生育し、増水時にも水をかぶらないような低い姿勢で生育していたものと思われ、草刈りにも強く、石垣の間に根を下ろし、背の低い群落を形成し、初夏に一面に咲いていたそうです。

K社員のエレク トーン奮闘記

エレク トーンを習い始めて4ヶ月での発表会での演奏でしたが、O先生の適格な指導と練習を頑張った成果も出たのか、落ち着いて演奏出来ました。息継ぎしないと死にますよと言われたフルートの部分もしっかりと息継ぎの表現が出来ました。

結局、一箇所の音を外してしまっただけ以外は自分でも満足のいく演奏をする事が出来ました。

演奏を終ると、「オーっ」という声が数人から出ました。そして、皆さんから大きな拍手を頂きました。飲酒OKの会場だったので、雰囲気も良かったのかもしれませんが、とても嬉しい気持ちになりました。

『新日本紀行』の一曲だけのレッスンにするつもりだったのですが、この経験で、もうちょっと色んな曲をやってみたいと思うようになりました。

ピアノ

先日、K社員はプロのピアニストのコンサートに行ってきたそうです。演奏に使用されたピアノ(写真)は1928年産のスタインウェイ。何と88歳のお爺さん(お婆さん?)。それでも年齢を感じさせない素晴らしい音色が心に響いたそうです。

スタインウェイって何なの?とK社



員に聞いたところ、K社員は待ってましたとばかり、聞いていない事までペラペラと鼻を膨らませて嬉しそうに喋ったのです。聞かなくて良かったのですが、ちょっとだけ興味が沸いたので、皆さんにも紹介させて頂きたいと思う、あ、いや、思います。

ピアノには『世界三大ピアノ』と言われているメーカーがあります。自動車というベンツやBMWといったところでしょうか。

まずは先述のスタインウェイ(アメリカ・ニューヨーク)。創業1853年。『金属』を鳴らすことをコンセプトとして産まれました。ピアノの王様と言われています。

次に、ベーゼンドルファー(オース

トリア・ウィーン)。創業1828年。『箱』を鳴らす事をコンセプトに始めました。

そして、ベヒシュタイン(ドイツ・ベルリン)。創業1853年。『響板』を鳴らす事をコンセプトに産まれました。

日本のメーカーも気になるころです。まずは皆さんご存知のヤマハ。

「日本楽器製造株式会社」として山葉寅楠が1897年に浜松で創業。ベヒシュタインをモデルに1900年にピアノ製造を開始しました。

また、ヤマハに貢献した河合小市が後に独立(1927年)して河合楽器(浜松)を設立しました。ヤマハに貢献した大橋幡岩も後に独立(1948年)してディアパソン(浜松)を設立しました。

ステンレス豆知識

右表の通り、ステンレスの種類や鋼種によって熱処理温度や処理が異なります。オーステナイト系は650℃前後で長時間加熱するか溶接熱が加わると鋭敏化組織となり粒界腐食しやすくなります。(参考:『事例で探すステンレス鋼選び』工業調査会)

	好ましい熱処理温度	主な鋼種 ※『SUS』の表記は割愛
オーステナイト系	950~1100℃、急冷	304, 316, 310S, 321, 347等
フェライト系	780~850℃、急冷	405, 430, 434, 444等
二相	950~1100°、急冷	329J1
マルテンサイト系	950~1000℃(焼入れ) 700~750℃(焼き戻し)	403, 410, 420J2
析出硬化型	時効処理は470, 540, 570&610℃の4段階を選定	630
	時効処理は2段階を選定	631

※431や440C等、温度域の違う鋼種があります。